

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300442		
法人名	有限会社 碧		
事業所名	グループホーム むつみ		
所在地	北海道川上郡標茶町旭2丁目4-19		
自己評価作成日	令和2年2月20日	評価結果市町村受理日	令和2年7月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300442-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和2年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用様が安心して生活が出来、楽しい毎日がおくれる様、色々工夫をしております。一人一人に合ったケアを職員全員で話し合い、考え 行っております。職員のほとんどが長年働いており、チームワークがとても良いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームむつみは、1ユニットに女性6名、男性3名の利用者が生活しています。併設の居宅介護支援事業所や通所介護があり、入居前からの利用者の状況や生活に対する希望をしっかり把握しています。利用者の生活に対する満足感を高めていくために、日々のケアが短期目標に照らしてどのように提供されているかを毎日確認し、よりよいケアを提供できるように取り組んでいます。新型コロナウイルス対策として、制限の多い毎日となっていますが、その中でも利用者が明るい気持ちになれるよう、また思ったことが何でも言ってもらえるような雰囲気を作っています。職員は、認知症の特性を理解し、自分の気持ちを上手く伝えられない利用者にも、信頼関係を築き、表情や仕草などから気持ちを推し量り、利用者の気持ちに寄り添えるよう話し合いを行っています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)		1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、利用者様の思いなどに耳を傾け、「本人らしく生き活きと」を実践しています。	理念を基に、利用者が地域の中でのびのびと自分らしく生活できるよう取り組んでいます。利用者の意思を尊重し、職員が話し合い、その時の利用者の気持ちを確認しながら支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の育成部との共同行事を毎年開催し、年に数回、NPOの食堂へ行ったり、地域の保育園の園児との交流をしています。	新型コロナウイルス流行により、今まで続けてきた地域や高校などとの交流行事が中止となっています。利用者は感染防止の対策をし、近所の地域食堂へ外食に出かけるなど、地域とのつながりを維持できるようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者講習に行っていない職員もいる為、これから受講してもらいます。また、在籍しているキャラバンメイトによる講習会も求めに応じて行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	職員不足が続いており、年6回の開催が出来ませんでした。次年度は6回開催が課題です。	新型コロナウイルスの影響で、会議の開催が困難な状況となっています。事業所の状況は毎月事業所だよりを運営推進会議の委員に送付し、現状を共有しています。感染症の流行が収まるまで、会議は延期となる見込みです。	運営推進会議には家族代表も委員として登録されています。今後委員以外の家族に対しても、会議設置の目的や、議事録の送付を行うなど、運営推進会議の意義を伝え、参加を促すよう取り組んでいくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事は介護保険係や包括支援センターに問い合わせるなどして、問題解決に取り組んでいます。	利用者が遠方の専門医を受診する場合や、福祉用具の購入が困難なケースなど、町や社協に相談し、連携して対応しています。利用者の重度化や、資力、成年後見の活用など幅広い相談を行い、利用者の立場に立った具体的な解決に繋がっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開催し、話し合った内容を周知徹底しています。そして、不定期の研修も実施しております。	併設の通所介護事業所と合同で定期的に委員会を開催しています。外部講師を招聘し研修を行い、職員の気付きを促しています。事業所として、職員の就業環境を改善し、負担やストレスを軽減することにより、さらに身体拘束を行わないケアを推進していくことを目標にしています。	現在、身体拘束や不適切ケアの防止は職員一人ひとりの自覚や定期的な振り返りにより取り組んでいます。しかし、職員一人当たりの夜勤回数が多いなど、ストレスや疲れによるスピーチロックなどを事業所として懸念しています。職員の募集などを通じて、余裕のあるシフト調整が期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスや研修会などで虐待が起こらない様に周知徹底したり、職員からのヒヤリングなど行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は町の権利擁護センターの運営会議委員となっており、意見交換を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者がご家族に説明し、納得して頂けるよう締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・ご家族と個別に話をする機会を作るようにしている。その際に出た内容については、検討し反映できる様にしております。	毎月、家族に事業所だよりを送付し、事業所の状況を伝え、さらに利用者ごとの担当職員が個別の近況報告を同封し、健康状態や通院結果を伝えていきます。管理者から電話で連絡し、面会できない時期にも希望や要望を受けやすいようにしています。利用者と家族との交流を通じ具体的な意見を得られるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、管理者が職員から個別に話を聞くようにしております。	月に1度の職員会議で、職員の意見を聞き、運営に取り入れるようにしています。管理者は職員の表情などから、職員の状況や業務に関して不安がないかを推察し、個別の話し合いの場を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得・職員の希望休や有休の取得など積極的に行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が行きたい研修や実践者研修の受講などに参加できる体制を取りたいが、人員不足によりなかなか参加出来ないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	以前は町内のグループホームとの行事での交流を行っていましたが、利用者のADLの低下などにより、なかなか出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早くグループホームの生活になじめるように、個別の時間を多めに作り対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、ご家族や利用者様との面談を数回行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談にて状況把握をするために、関係機関の方に話を聞いたり、ご家族・利用者様の思いや要望を話して頂き想いに添えるようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として考え、色々な経験や思いなどを積極的に表現できるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側だけでなく、ご家族も一緒に課題を把握しご本人により良いケアを考えていっております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来所や、階下の通所介護へ行き楽しめる時間を過ごすなどして、関係性を保ち続けられるように支援しています。	新型コロナウイルス対策で面会ができない時期がありましたが、地域の状況に応じた安全策を講じ、面会を再開しています。さらに、つながりを維持できるように、他の介護保険施設に入所する家族とオンラインでの面会ができるように準備を進めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が座っている所などに職員が行って、会話に参加したりなど、交流を持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方のご家族様から相談や近況報告など受ける事があり、その際は、相談支援を行う時があります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人がこれまで生活してきた背景や色々な経緯を把握し、ご本人とお話し、より良い支援をする様にしています。	入居前の状況や、入居後に希望する生活についてなど幅広いアセスメントを行って、利用者の希望を実現できるように検討しています。意向の表明が困難な利用者の気持ちを汲み取るよう、信頼関係を築き、思いを共有するよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様それぞれの今までの暮らし方など、ご本人やご家族様などから聞き、積極的に把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員がそれぞれの視点から利用者様を観察し、情報共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行うカンファレンスの中で、職員全員で計画についての意見を言い、計画作成がまわっています。	職員全員が参加するケアカンファレンスで、ケア目標について「なぜできないか、なぜやれないのか」という視点から検討し、新たな計画に反映しています。毎日、各職員が実施状況とモニタリングを記入し、月ごとに計画作成者が会議を踏まえてとりまとめ、精度の高い見直しを行っています。利用者の趣味や自立の視点に立ったケア目標を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな気づきでも大切に、支援経過に残しています。24時間のチェックシートの活用や職員全員が把握出来る様に、申し送りノートに記入など行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町にも協力体制を整えてもらいながら、さまざまな支援に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様一人一人の状況を把握し、住み慣れた地域の中で交流出来る様にしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診同行にて主治医から話を聞いたり、入院した際にはケースワーカーに話を聞いたり、情報交換しながら進めています。	殆どの利用者は町立病院へ定期通院しています。併設の通所介護事業所の看護師より、巻き爪の処置など介護職員が行えない医療行為や、受診のタイミングなどの助言を受けています。緊急の場合は町立病院が24時間対応をしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	階下のデイサービスの看護師と連携し、個別に処置のお願いをする時もあります。また、医療関係などの困った事があれば、相談し解決するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーや退院調整看護師と連携し意向も伝え支援を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所した時や必要に応じて随時説明し、家族と一緒に考え、関係機関に協力してもらいながら支援しています。	地域医療の現状を踏まえ、入居時に事業所の方針を家族に説明しています。利用者が事業所で安心して過ごせるか、医療が必要な状況とはどのような状態かなどを伝え、意向を確認しています。看取り支援は行っていませんが、寝たきり時の長距離の通院について寝台車両を町と協力して準備するなど、できるだけ事業所で生活が継続できるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議の時などに、手順の確認・連絡の確認など行っています。それと、救急救命講習を定期的に行い知識と技術の向上につなげています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実体験を元に関係機関と事務所内で協議をしています。	避難訓練は2回行っています。今年、豪雨による町からの避難指示があり、深夜に職員を招集し、実際に避難を行いました。避難に必要な備品を用意していましたが、新型コロナウイルス対策として、持ち出し備品には体温計などの不足があり、リストの見直しを行いました。	避難先が介護保険施設のため、受入れ先の都合もあると思われますが、受け身でなく、事業所としての避難のタイミングや職員の安全にも配慮した防災計画を立案することが期待されます。また、計画は町や関係機関とも共有し、連携体制を強化することが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でご利用者様の事を話す時に、実名ではなく呼び方を変えて話をしています。	職員は、利用者への言葉遣いが気になる場合は職員同士で注意しています。また、利用者の家族以外から、利用者の個人情報について訊ねられても答えられないことを伝え、利用者のプライバシーの保護に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様と個別に話す機会を作り、気持ちなど伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員同士常に意見交換し、ご利用者様の身体的・精神的に応じたケアを行うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の嗜好等を把握し、実践出来る様になっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様のADLが落ちてきていて、全てのご利用者様と一緒に食事の準備や片づけはできていませんが、行事食やお誕生日の時には、好きな物を出したり、食事形態を変えて提供したりなどしています。	利用者が昔食べていたものの作り方を教えてもらったり、食材の下ごしらえに参加してもらったりしています。糖尿病など、食事に制限がある場合でも他の利用者と同じものや同じ量で食べているように工夫しています。利用者が楽しみにしている外食も少しづつ再開しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一目で摂取量がわかるようにしており、職員間で情報を共有し、栄養状態等に応じて個別にケアをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。その際に口腔内の汚れなどを把握し、嚥下などの評価につなげています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを全職員で把握・共有し、時間ごとのトイレ誘導をしています。	利用者に合わせて布下着やリハビリパンツ、おむつを使い分けて、利用者の自尊心に配慮した支援を工夫しています。食べ物や飲み物で自然な排泄ができるようにしたり、医療機関と失禁の原因について相談するなど、利用者が快適に過ごせるよう協力を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品をとって頂いたり、水分量の確保に努めています。また、主治医から許可をもらい、ご本人に負担にならないような下剤の管理をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	現在、利用者様の希望に沿った入浴は職員不足の為出来ていませんが、「入りたくない」と言った場合などは、時間や日にちをずらし対応しています。入浴中は、おしゃべりをしたり、時には歌を歌ったりしています。	利用者ごとに毎週2回の入浴を行っています。入浴中は、湯に浸かり、職員と一対一でおしゃべりを楽しんでいます。暑い日や寝る前などの入浴の希望には、背中を拭いて保湿剤を塗るなどの対応を行っています。	近年の夏の暑さに対し、事業所の冷房設備や扇風機の設置などの対策が十分とは言えない部分もあります。汗を流したいという希望に応えられるよう、入浴時間やシフトの調整などを工夫しながら検討していくことが期待されます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は、気持ちが落ち着くようお話ししたり、温かい飲み物を寝る前に飲んだりしています。日中も声掛けをしながら、休んで頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は、その効果を十分把握し、疑問などはかかりつけの薬剤師に相談しています。受診同行の際には、主治医ともよく相談をし、変化等は伝えていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の趣味や特技を活かし、作品を作って頂いたり、地域食堂へ行き昼食を食べてきたりと外出支援を行う事もあります。ご家族様に協力を得ることもあります。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	上記同様に、ご家族の支援で外泊や外出を行いました。ドライブや買い物、お祭りにいくなどしています。	新型コロナウイルス対策のため、外出行事などは制約がありますが、事業所の庭にテーブルや椅子を出して日光浴などを行っています。今後、地域の感染状況を見ながら利用者の気晴らしになるよう、外出を増やしていく予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら金銭管理をおこなっています。希望に応じてご本人が管理する時もあり、職員と一緒に買い物などへ行ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する利用者様には、事業所の電話を使用して交流がもてるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節感ももてるような飾りをつけていたり、居間がわからなくならないように、顔写真やお名前を書いた紙を貼ってあります。	居間では、湿気がこもらないように換気扇や窓を開けるなどの対応をしています。夏場は特に脱水などに配慮し、水分補給を随時行いながら利用者みんなで飾りものや、作品作りなどを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの椅子の設置の工夫や、気の合ったご利用者同士が互いの居間でおしゃべりしたり出来るようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具など使用して頂いております。	入居の際は、認知症の特性から、使い慣れた持ち物や家具を身近に置くことが混乱を避け、安心した居場所作りに効果があることを伝え家族に協力してもらっています。趣味の編み物などを継続できるよう支援しています。夏場でも風が当たると寒く感じる利用者もおり、本人の体感温度を理解し、うちわや扇風機も活用するなど熱中症の予防に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に「お風呂」「便所」などと掲示し、わかりやすい様工夫をしています。		